

日ASEANにおける海洋ごみ問題の課題と対策

—タイのチュラロンコン大学とオンラインセミナーを共催—

2023年2月9日

「タイの海洋ごみ問題：科学と技術の活用による前進」

講師：スチャナ・アップル・チャバニク チュラロンコン大学教授

「海洋プラスチック問題に対する日本の化学産業界の取り組み」

講師：樋口 俊彦 日本化学工業協会 化学品管理部部長

ディスカッション

モデレーター：田中 勝 岡山大学名誉教授（株式会社廃棄物工学研究所代表）

経済広報センターは2月9日、「ASEANと日本の海洋ごみ問題について考える」と題するオンラインセミナーをタイのチュラロンコン大学と共催した。日本、タイをはじめとする7カ国から、学生、企業、業界団体の幹部ら約80人が参加した。

チュラロンコン大学のスチャナ・アップル・チャバニク理学部海洋科学科教授と日本化学工業協会の樋口俊彦化学品管理部部長が、自国の海洋ごみ問題とプラスチック資源循環に関する現状と課題、具体的な取り組みなどについてそれぞれ講演した。

チャバニク氏は、タイの海洋ごみ問題の現状や課題に加えて、科学技術を用いて海洋ごみに対処する取り組み事例を紹介した。加えて、タイ政府が、海洋ごみ問題の解決に向け、プラスチックごみの削減、プラスチック資源循環型社会への転換を軸とした2023年までのロードマップを公表していると説明。プラスチックごみ削減には、一般生活者の協力が必須であり、そのロールモデルとなる人づくりに注力していると、自身の取り組みを紹介した。

樋口氏は、海洋ごみ問題に対する日本の化学産業界の課題認識、その課題解決に貢献し得るプラスチックの循環経済の確立に必要な要素に触れながら、日本の化学産業界の取り組みを説明した。また、化学業界による東南アジア諸国向けの支援事例を紹介。具体的な最近の実績として、①現地関係者を日本に招いて開催した、プラスチック廃棄物の管理能力の向上を目的とするセミナー②プラスチックの価値や資源循環の大切さを伝える青少年向け教育用DVDの現地語（タイ語、インドネシア語、ベトナム語）版の制作——などを挙げた。

その後、岡山大学の田中勝名誉教授がディスカッションのモデレーターを務め、参加者との間で活発に意見交換した。

以 上

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階
電話 : 03-6741-0031
<https://www.kkc.or.jp/>
<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。